

養老

新上能



演目

狂言 「竹生島参」

能

「養老」水波之伝

井上松次郎 鹿島 俊裕

久田 勘鷗 久田三津子 他

日時／平成29年8月26日(土) 17時30分開場 18時30分開演
 場所／養老公園第3駐車場 特設舞台
 雨天時／養老町民会館 ※会場変更の場合は、当日の11時までに決定します。
 ※演能中に雨が降った場合は終演とします。

○出演者は、都合により変更になる場合があります。
 ○写真・ビデオの撮影及び録音（携帯電話の機能も含む）は、禁止しております。



入場料／
2,000円(全席自由席)

主催／養老改元1300年祭実行委員会
 養老町役場 総務部企画政策課養老改元1300推進室内
 〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798 TEL.0584-32-5089 FAX.0584-32-2686

イベントスポンサー／
 西濃運輸
 公益財団法人 田口福寿会

○駐車場は16時15分以降は無料です。
 養老駅から会場まで、無料シャトルバスを運行します。

平成29年 **8月26日** **土** 開場 / 17時30分 開演 / 18時30分

場所 / 養老公園第3駐車場 特設舞台 ※演能中に雨が降った場合は終演とします。
 雨天時 / 養老町民会館 ※会場変更の場合は、当日の11時までに決定します。
 岐阜県養老郡養老町石畑483-2 TEL.0584-32-1281

養老改元三〇〇年祭事業

養老 新能

■竹生島参 (ちくぶしままいり)

主人は、召使いが無断で旅に出かけていたと知り、懲らしめるため自宅を訪ねますが、竹生島(琵琶湖の北に浮かぶ小さな島)へ参拝していたことを知り、許すかわりに旅の面白い話をするように求めます。
 召使いは、主人に許してもらおうと必死に努めますが…。

■養老 (ようろう) 一番目物

【あらすじ】
 頃は初夏、美濃国(岐阜県)本巢の郡に霊水が湧き出るとの報告があったので、雄略天皇の勅命を受けて、勅使が下向します。一行が養老の滝のほとりに着くと、老人と若者の二人の樵夫が、来かかります。勅使は、これこそ話に聞く養老の親子であろうと思って尋ねると、果たしてそうでした。老人は、問われるままに、養老の滝と名づけられたいわれを物語ります。ついで老人は、勅使をその滝壺に案内し、霊泉をほめ、更に他の霊水の例を挙げつつ、この薬の水の徳をたたえます。すべてを見聞した勅使は、感涙を流し、この由を奏聞しようと帰洛しかけると、にわかにかから光がさし、花が降り、音楽が聞こえ、ただならぬ様子となります。(中入)そこへ、所の者が出て養老の滝のいわれを語り、滝の水を飲んで、若返りの様を見せます。ついで、養老の山神が出現し、清らかな水をたたえ、神仏はもとより同体であり、共に衆生を救おうとの御誓願であって、時として神と現じ仏と現れ給うのであると述べます。そして峰の嵐や谷川の音を音楽として舞を奏し、秦平の世を祝福して、神の国へと帰ってゆきます。

【みどころ】
 聖代の奇跡を寿ぐのが主題です。本来の協能の約束である神社の縁起を説くのではなく、霊泉の物語を脚色したもので、面白く見せようとする工夫がなされています。異色ではありますが、作者世阿弥としては、相当自信があったようです。後世になると、養老の滝は、孝行の徳で酒になったという点が強調されますが、能では仙家の薬の水もかくやと思われる不思議な水だとし、親孝行を押しつけるような教訓的なところはなりません。
 現行の演出では、前シテとツレが中入をすると、入れ替りに間狂言が里の男の役で登場します。(シテだけ中入してツレの残る場合もあります)アイはワキとの交渉はなく、独自の形で演ぜられます。(このアイが、養老の山神に仕える末社の神の場合もあります。またアイが登場しない演出もあります)アイが退場したあと、後シテが颯爽と登場し、〈神舞〉をまうことになっています。この演出では、前シテが後シテの化身であるように思えます。古くは、親子の者が実在の人物として、ワキの勅使と共にそのまま舞台に残り、別の役者が山神の役で出たのではないかと考えられます。本文の書き方から見て、その方が自然です。アイやツレの扱い方の混乱も後世の改修の不徹底さの表れです。後シテは「高砂」や「弓矢幡」のようにもと老体であったと思われる。位の高い神でなく、名も無い荒々しい山神ですから、同じ〈神舞〉でも野趣のあるキビキビしたものになります。

【備考】
 霊泉出現によって、霊龜3年11月、「養老」と改元されました。717年のことです。

■ 演目 狂言 [竹生島参] シテ(太郎冠者) 井上松次郎
 シテ(主人) 鹿島 俊裕

能 [養老] 水波之伝
 前シテ(樵翁) 久田 勘鷗
 後シテ(山神) 寺澤 幸祐
 ツレ(樵夫) 武田 友志
 ツレ(天女) 久田三津子
 他



久田勘鷗 (ひさだかんおウ)
 シテ方観世流能楽師
 一般社団法人日本能楽会 会員
 重要無形文化財総合指定保持者
 公益社団法人
 能楽協会 名古屋支部副支部長

入場料金

2,000円(全席自由席) ※屋外開催時のみ立ち見スペース(無料)有

入場券販売所

※販売所によって取扱時間、曜日が異なりますので、ご注意ください。

養老町役場総務部企画政策課 TEL.0584-32-5089 養老町商工会 TEL.0584-32-0549
 養老町中央公民館 TEL.0584-32-1281 チケットぴあ TEL.0570-02-0999
 養老公園事務所 TEL.0584-32-0501 [Pコード:480-343]

販売期間

平成29年7月14日(金)～平成29年8月25日(金) ※チケットぴあでの取り扱いは、平成29年8月18日(金)まで

問い合わせ先

養老改元1300年祭実行委員会
 養老町役場 総務部企画政策課養老改元1300推進室内
 〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798 TEL.0584-32-5089 FAX.0584-32-2686

養老鉄道 養老駅 時刻表

大垣行			桑名行		
16	11	51	16	11	52
17		31	17		31
18	12	52	18	13	52
19		33	19		34
20	13	53	20	13	54
21		33	21		33
22		51	22	14	51(駒野行)

※会場へは、なるべく公共交通機関をご利用ください。
 ※養老鉄道、養老駅⇨会場間は、無料シャトルバスを随時運行しています。(所要時間/約15分)
 ※開演時間中は、無料シャトルバスの運行を休止します。